

研究ノート

ポートフォリオ学習を継続して ～2年目を終えて～

Continuation of Portfolio Learning

～ After Learning in the Second Year ～

山口さつき 栗原律子 佐藤慶如

Satsuki YAMAGUCHI, Ritsuko KURIHARA and Yasuyuki SATOU
旭川大学保健福祉学部保健看護学科

キーワード：ポートフォリオ, 学習, 看護学生

抄 録

当科では学生が目標に向かって自主的に学ぶことができるように2020年度よりポートフォリオ学習を導入した。1年が経過した時点で行った調査では、ポートフォリオ学習を行うことができない学生に対して進め方の検討が必要であることが示唆されたため、記録様式の見直しおよびオンライン会議システムを導入した担任の介入を行った。2年目を終えて、その成果と今後の課題を明らかにするために調査を行った結果、ほとんどの学生がPDCAサイクルで展開し自己の課題を明らかにすることができた。しかし、依然としてポートフォリオ学習の行う意味や方法がわからない学生、継続できない学生がおり、目標に向かって主体的に学ぶためには、要所で肯定的フィードバックをしながら伴走する担任の介入が必須であることが示唆された。

I. 緒 言

中央教育審議会は、「学士課程教育の構築に向けて」¹⁾の中で、「学習成果」を学生自らが管理・点検するとともに、大学としてこれを多面的に評価する手法として、学習ポートフォリオを導入・活用することを勧めている。しかし、2019年度時点で、当科においては、まだ導入していない状況であった。また、当科の学生は、自己の課題を明確にし主体的に取り組めていないという傾向が見られた²⁾。

そこで、早期から学生一人一人が、自らなりたい看護師を目標に一步一步前進していくことができるよう、2020年度の新入生よりポートフォリオ学習を導入し取り組んできた。一年が経過した時点で、約8割の学生が自己の課題を明確にすることが出来ていたこと、目標を適切に設定できた学生はポートフォリオ学習用紙を活用しそれを俯瞰することで一年間の自己の成長を実感することが出来ていたこと、ポートフォリ

オ学習を行うことが出来ない学生はやり方がわからない・行う必要性がわからない・継続できないことが明らかになった。それを受けて記録様式を修正し、担任が介入しやすいようにオンライン会議システムを取り入れた。

ポートフォリオ学習に取り組んで2年が経過し、今後さらに効果的にポートフォリオ学習を進めていくために、2年次終了した学生に対し、ポートフォリオ学習における成果および課題を明らかにすることを目的として調査を実施した。

II. 研究 方 法

1. 用語の操作的定義

ポートフォリオ学習：卒業時に目指すゴールを明らかにし、そこに向かって1年ごとに目標・計画を立て実行した内容や成果および振り返り評価を記録に残していく学習法。

2. 調査期間：2021年5月～2022年5月

3. 調査対象者：看護系大学3年生58名 調査対象者の2年次の担任4名

4. 調査方法

ポートフォリオ学習を行って2年目を終えた3年生58名に対して、無記名によるオンライン（Microsoft Forms）にてアンケート調査を行った。アンケートは、4段階のリッカート尺度を用いた。質問内容は以下の通りである。

- (1) 4年間のゴールシートを見直すことができたか、その理由
- (2) 目標・計画を具体的に書き込むことができたか、その理由
- (3) 1年間取り組んだ記録をファイルに綴じることができたか、その理由
- (4) 実習記録をファイリングして基礎看護学実習Ⅰと基礎看護学実習Ⅱと比較検討できたか、その理由
- (5) 中間評価シートを活用することができたか、その理由
- (6) ポートフォリオを行って今後取り組むべき内容が明らかにできたか、その理由
- (7) ポートフォリオを継続して実施できたか、その理由
- (8) 取り組んでみて自己評価はどうか、その理由
- (9) ポートフォリオを行った事はプラスになったか、その理由
- (10) 担任との面接回数は妥当だったか、その理由
- (11) 担任のteamsを通しての確認・促しはどうか、その理由
- (12) 記録用紙は使いやすかったか、その理由
- (13) その他の意見・感想

【ポートフォリオ学習シート】

昨年「ポートフォリオとプロジェクト学習」³⁾を参考に作成したポートフォリオシートは、分かりづらかったという学生の反応⁴⁾から、4年間のゴールシート1（卒業時のビジョンおよびゴールを記載するシート）はそのままとし、PDCAサイクル（Plan-Do-Check-Act cycle）にそって展開できるように修正したポートフォリオシートを作成した。一枚の用紙に目標と計画を記入するシート2、1つ1つの目標に対し実践結果を記入するシート3、途中で達成できたこと・達成できてい

ないことを挙げ振り返る中間シート4で構成されている。

担当した教員より面談回数、リモートによる介入回数、PDCAサイクルで展開できた学生の割合、自己の課題を明確にできた学生の割合を調査する。

5. 分析方法

ポートフォリオ学習に対する13項目の質問に対し、「できた」「少しできた」「あまりできなかった」「できなかった」の4段階で回答したデータを、各質問ごとに単純集計を行った。

6. 倫理的配慮

Formsは無記名の設定とした。学生への配信時には、調査への参加は自由意志であり、同意が得られない場合においても成績などで不利益を被ることはないこと、調査結果に対しては研究以外の目的で使用することが無いこと、得られたデータは研究終了後速やかに破棄することを明記した説明文を添えた（旭川大学倫理委員会承認番号22-2）。

Ⅲ. 結 果

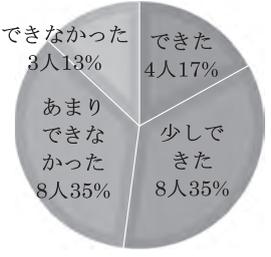
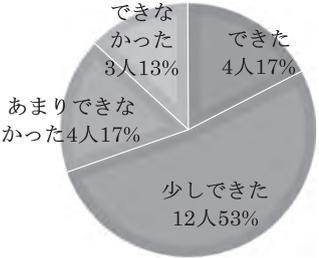
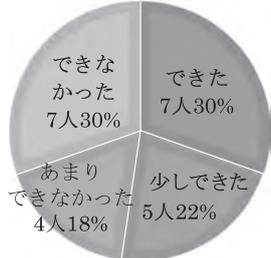
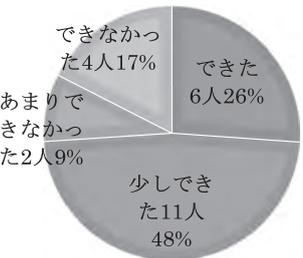
Microsoft Formsによるアンケートを58人に配信し、23人（39.6%）から回答が得られた。以下、質問毎の回答数とパーセンテージを図に、そのことに関する学生のコメントを表に示す。

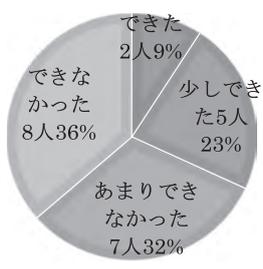
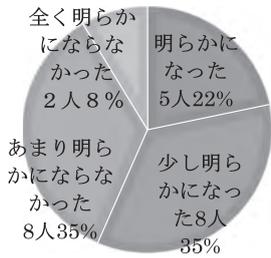
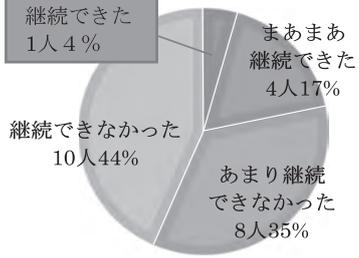
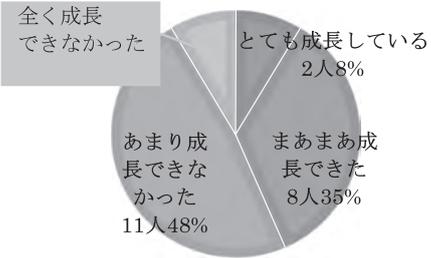
卒業時のビジョンおよびゴールを記載するシートの見直しは、おおよそできた学生は半数であった。見直しを行っていた学生は自分が何を目指していたのか確認することが出来ていたが、見直しをしていない学生はゴールシートの存在を忘れてしまっていた（図・表1）。

7割の学生が目標・計画を少しあるいはそれ以上具体的にできたと回答している。できなかった学生はポートフォリオ学習を行うことを後回しにする傾向がある（図・表2）。

実践したものをファイリングした学生は半数であった。目標・計画は立てることが出来ても実践の記録をすることが出来ない傾向にある（図・表3）。

基礎看護学実習ⅠとⅡの比較検討を74%の学生が行っていた。その中には基礎看護学実習Ⅰでできなかったことが基礎看護学実習Ⅱでできるようになった

 <p>できなかった 3人13% できた 4人17% あまりできなかった 8人35% 少しできた 8人35%</p> <p>図1 ゴールシートの見直し</p>	<p style="text-align: center;">表1 ゴールシートの見直し</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">できた学生のコメント</th> <th style="width: 50%;">できなかった学生のコメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自分のなりたい将来が変わってきていることに気づけた 自分の目標を改めて認識できた 定期的に行っていたなど </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> その時間があるなら国試対策してほしい 存在を忘れていた 5名など </td> </tr> </tbody> </table>	できた学生のコメント	できなかった学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 自分のなりたい将来が変わってきていることに気づけた 自分の目標を改めて認識できた 定期的に行っていたなど 	<ul style="list-style-type: none"> その時間があるなら国試対策してほしい 存在を忘れていた 5名など
できた学生のコメント	できなかった学生のコメント				
<ul style="list-style-type: none"> 自分のなりたい将来が変わってきていることに気づけた 自分の目標を改めて認識できた 定期的に行っていたなど 	<ul style="list-style-type: none"> その時間があるなら国試対策してほしい 存在を忘れていた 5名など 				
 <p>できなかった 3人13% できた 4人17% あまりできなかった 4人17% 少しできた 12人53%</p> <p>図2 目標計画を具体的に記入</p>	<p style="text-align: center;">表2 目標計画を具体的に記入</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 2年修了時になりたい自分を見失わないように、目標にそった計画をたてて実行できた 項目ごとにきちんと記述することができた </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 具体性に欠けていた 後回しになってしまう </td> </tr> </tbody> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 2年修了時になりたい自分を見失わないように、目標にそった計画をたてて実行できた 項目ごとにきちんと記述することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 具体性に欠けていた 後回しになってしまう 		
<ul style="list-style-type: none"> 2年修了時になりたい自分を見失わないように、目標にそった計画をたてて実行できた 項目ごとにきちんと記述することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 具体性に欠けていた 後回しになってしまう 				
 <p>できなかった 7人30% できた 7人30% あまりできなかった 4人18% 少しできた 5人22%</p> <p>図3 取り組んだ記録のファイリング</p>	<p style="text-align: center;">表3 取り組んだ記録のファイリング</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向けて1年間での行いを確認できたため。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> シート3の取り組みを十分に理解していなかった 忘れてしまう 3名 何を書けばいいのかわからなかった 後回しにしてしまう 2名 </td> </tr> </tbody> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向けて1年間での行いを確認できたため。 	<ul style="list-style-type: none"> シート3の取り組みを十分に理解していなかった 忘れてしまう 3名 何を書けばいいのかわからなかった 後回しにしてしまう 2名 		
<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向けて1年間での行いを確認できたため。 	<ul style="list-style-type: none"> シート3の取り組みを十分に理解していなかった 忘れてしまう 3名 何を書けばいいのかわからなかった 後回しにしてしまう 2名 				
 <p>できなかった 4人17% できた 6人26% あまりできなかった 2人9% 少しできた 11人48%</p> <p>図4 基礎看護学実習 I と II の比較検討</p>	<p style="text-align: center;">表4 基礎看護学実習 I と II の比較検討</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 去年できなかったことが今年できたことがあって成長した！となった 目標達成に対して行動できた 実習については、1年の時を見直して2年の振り返りができた </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> そこまで手が回らなかった 比較するという考えがなかった </td> </tr> </tbody> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 去年できなかったことが今年できたことがあって成長した！となった 目標達成に対して行動できた 実習については、1年の時を見直して2年の振り返りができた 	<ul style="list-style-type: none"> そこまで手が回らなかった 比較するという考えがなかった 		
<ul style="list-style-type: none"> 去年できなかったことが今年できたことがあって成長した！となった 目標達成に対して行動できた 実習については、1年の時を見直して2年の振り返りができた 	<ul style="list-style-type: none"> そこまで手が回らなかった 比較するという考えがなかった 				

 <p>図5 中間評価の活用</p>	<p style="text-align: center;">表5 中間評価の活用</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">できた学生のコメント</th> <th style="width: 50%;">できなかった学生のコメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 目標の達成状況までの過程を明確にできた </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> タイミングを決めていなかった 行う期間わからなかった 書き忘れ。面談があるから書こうって気になるけど無いとかかかないんだろうなって。 忘れていた シートどんなものか覚えていない 中間をどこで置くか曖昧だった 自己評価が難しい </td> </tr> </tbody> </table>	できた学生のコメント	できなかった学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 目標の達成状況までの過程を明確にできた 	<ul style="list-style-type: none"> タイミングを決めていなかった 行う期間わからなかった 書き忘れ。面談があるから書こうって気になるけど無いとかかかないんだろうなって。 忘れていた シートどんなものか覚えていない 中間をどこで置くか曖昧だった 自己評価が難しい
できた学生のコメント	できなかった学生のコメント				
<ul style="list-style-type: none"> 目標の達成状況までの過程を明確にできた 	<ul style="list-style-type: none"> タイミングを決めていなかった 行う期間わからなかった 書き忘れ。面談があるから書こうって気になるけど無いとかかかないんだろうなって。 忘れていた シートどんなものか覚えていない 中間をどこで置くか曖昧だった 自己評価が難しい 				
 <p>図6 今後取り組むべきことが明らかになったか</p>	<p style="text-align: center;">表6 今後の取り組むべきことが明らかになった</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自身について振り返って紙にまとめることで目標、改善すべき点が明確にできた 明記することで意識できる やらなきゃいけないことは必ずあるもので一年の初めに目標を立てることはいいことだ 自身の課題を明確にできたため 達成したもの、新たに発見することができた課題を明確にすることができた </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 使い方がわからない ポートフォリオを確認することが少なかったため </td> </tr> </tbody> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 自身について振り返って紙にまとめることで目標、改善すべき点が明確にできた 明記することで意識できる やらなきゃいけないことは必ずあるもので一年の初めに目標を立てることはいいことだ 自身の課題を明確にできたため 達成したもの、新たに発見することができた課題を明確にすることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 使い方がわからない ポートフォリオを確認することが少なかったため 		
<ul style="list-style-type: none"> 自身について振り返って紙にまとめることで目標、改善すべき点が明確にできた 明記することで意識できる やらなきゃいけないことは必ずあるもので一年の初めに目標を立てることはいいことだ 自身の課題を明確にできたため 達成したもの、新たに発見することができた課題を明確にすることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 使い方がわからない ポートフォリオを確認することが少なかったため 				
 <p>図7 継続できたか</p>	<p style="text-align: center;">表7 継続できたか</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">できなかった学生のコメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 忘れてしまっていた 4名 面談がある直前に見直したりするだけで1年間の総合的な振り返りはできたが自己学習を別に行っているから、日々学んだことをポートフォリオに書き留めたりする習慣とならなかった 数か月に一度まとめて取り組むことが多かった 年に2回くらいしか使わなかった 具体的に何を継続して書けばいいのかわからなかった。 他の課題などに追われて行えないことが続いた あまり意識していない </td> </tr> </tbody> </table>	できなかった学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 忘れてしまっていた 4名 面談がある直前に見直したりするだけで1年間の総合的な振り返りはできたが自己学習を別に行っているから、日々学んだことをポートフォリオに書き留めたりする習慣とならなかった 数か月に一度まとめて取り組むことが多かった 年に2回くらいしか使わなかった 具体的に何を継続して書けばいいのかわからなかった。 他の課題などに追われて行えないことが続いた あまり意識していない 		
できなかった学生のコメント					
<ul style="list-style-type: none"> 忘れてしまっていた 4名 面談がある直前に見直したりするだけで1年間の総合的な振り返りはできたが自己学習を別に行っているから、日々学んだことをポートフォリオに書き留めたりする習慣とならなかった 数か月に一度まとめて取り組むことが多かった 年に2回くらいしか使わなかった 具体的に何を継続して書けばいいのかわからなかった。 他の課題などに追われて行えないことが続いた あまり意識していない 					
 <p>図8 自己評価</p>	<p style="text-align: center;">表8 自己評価</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自身でいま成長できていなかったと思っていたが振り返ると意外と成長で来ていたため 具体的に目標を達成することができた </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 成長は見られたがまだ足りない 中身が変わっていない気がする 目標達成できていない箇所があった 一年前と比べて自分が成長したところを見つけることができなかった 書くのを忘れていたら意味がないと思った ポートフォリオで作成した目標をあまり意識していなかった </td> </tr> </tbody> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 自身でいま成長できていなかったと思っていたが振り返ると意外と成長で来ていたため 具体的に目標を達成することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 成長は見られたがまだ足りない 中身が変わっていない気がする 目標達成できていない箇所があった 一年前と比べて自分が成長したところを見つけることができなかった 書くのを忘れていたら意味がないと思った ポートフォリオで作成した目標をあまり意識していなかった 		
<ul style="list-style-type: none"> 自身でいま成長できていなかったと思っていたが振り返ると意外と成長で来ていたため 具体的に目標を達成することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 成長は見られたがまだ足りない 中身が変わっていない気がする 目標達成できていない箇所があった 一年前と比べて自分が成長したところを見つけることができなかった 書くのを忘れていたら意味がないと思った ポートフォリオで作成した目標をあまり意識していなかった 				

<p>全くプラスにならなかった 6人26%</p> <p>プラスになった 3人13%</p> <p>少しプラスになった 7人30%</p> <p>あまりプラスにならなかった 7人30%</p> <p>図9 ポートフォリオがプラスになったか</p>	<p>表9 ポートフォリオがプラスになったか</p>	
<p>多すぎた 4人4%</p> <p>ちょうど良かった 19人96%</p> <p>図10 担任との面接回数</p>	<p>できた学生のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオに取り組んで日頃の考えが整理できた ・ないよりはあった方がいいのかな?って思ったから。 ・目標と過程が明記されていたため、達成に向けての取り組みが前向きになった。 ・何が必要なのか明確にできるため ・達成度や課題を明確にできた ・自分の成長や課題を文字(紙媒体)で確認することができ、わかりやすかった 	<p>できなかった学生のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受け、演習に取り組み、実習に参加することでそれとなく知識や技術は身につくつあるものの、ポートフォリオに目標や行動を記したことによる行動変容には繋がらず最終評価で毎回のよう同じ反省をしていると感じたため ・正直あまりやっている意味が分からない、やらなくてもいいのではと思う。 ・日々の記録がないため ・あまり意識してなかった
<p>全く良くなかった 2人9%</p> <p>良かった 4人17%</p> <p>まあまあ良かった 13人57%</p> <p>図11 担任の teams の関わり</p>	<p>表10 担任との面接回数</p>	
<p>使いづらかった 7人30%</p> <p>使いやすかった 3人13%</p> <p>普通 13人 57%</p> <p>図12 記録用紙について</p>	<p>生徒以上に先生が忙しいから、これくらいが妥当だろう</p> <p>・面接の回数としては良かったが担任自身もポートフォリオについてあまり理解していなかったため参考にならなかった</p>	<p>一年に一回でいいと思う</p>
<p>図12 記録用紙について</p>	<p>表11 担任の teams の関わり</p>	
	<p>良かった学生のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促さなかったら、存在をわすれるから ・ポートフォリオの取り組みを忘れることがなかったため ・忘れていたのを思い出すから ・teamsのほうが有難い ・自身が忘れていたときに連絡がきたためポートフォリオを記入できた 	<p>良くなかった学生のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任からの促しはあまり見られなかった ・自分のペースで書かせてほしい ・生徒間で進捗のばらつきがあったため、統一してほしい ・他のクラスよりは少なかったため
	<p>表12 記録用紙について</p>	
	<p>書く量とサイズがちょうどよかった。</p>	<p>・Excelのほうが使いやすくて良かった</p> <p>・記載方法が分からず、クラス担任に確認したが明確な返答がなかったため曖昧に記載した部分があった</p> <p>・紙媒体だと、なんとも思わなかったがデータだと使いにくい</p> <p>・大雑把な書き方でわかりづらい、説明が欲しい。</p> <p>・エクセルでの記入が行いにくいと感じた</p>

表13 各クラスの面談回数と成果

	対面面談回数	リモート面談回数	リモートでの介入	PDCA サイクルでの展開ができた学生の割合	自己の課題を明確にできた学生の割合
Aクラス (16人)	1回	1回	1回	94%	94%
Bクラス (15人)	2回	0回	2回	80%	93%
Cクラス (16人)	2回	0回	4回	94%	100%
Dクラス (15人)	1回	1回	3～4回	86.6%	100%
2年生全体 (62人)	1～2回	0～1回	1～4回	88.7%	96.8%

と成長を実感した学生もいた (図・表4)。

中間評価のシートは、7割近くの学生が活用することが出来ていなかった。行う時期を決めていなかったり、忘れていたりしている (図・表5)。

今後取り組むべきことが少し以上明らかになった学生は約半数であった。ポートフォリオ学習を行った学生は経過を明記することで自己の課題を明らかにできている (図・表6)。

継続できたかについては、約8割の学生ができていなかった。忘れていた、他に優先するものがある、意識していないなどのコメントから継続の必要性を感じていない傾向がある (図・表7)。

約6割の学生が一年を通して自己の成長を実感することが出来ていない。約6割の学生がポートフォリオをおこなってプラスになったと実感することが出来ていない (図・表8・9)。

担任の介入に対しては、面接は対面1～2回、リモート対面は0～1回行っているが、9割以上の学生が良かったと回答している。リモートでの介入は1～4回行っているが、7割以上の学生が良かったと回答している。ポートフォリオ学習に取り組むのを忘れていたことを思い出す機会になったというコメントが多い (図・表10～13)。

記録用紙については、使いづらかったと答えた学生は3割であった。記入しにくい、記載方法がわからないというコメントがあった (図12)。

担任が担当クラスの学生に対して、PDCA サイクルで展開ができた学生の割合は8割以上、自己の課題を明確にできた学生の割合は9割以上であると認識していることが分かった。

IV. 考 察

ポートフォリオ学習を導入して2年が経過し、取り組みの成果と今後の課題を検討するため学生ヘアンケート調査を行った。その結果、取り組むべき自己の

課題が明らかになった学生は約半数、ポートフォリオ学習を継続できていない学生は約8割、自己の成長を実感できていない学生は約6割、ポートフォリオ学習を行った事がプラスになったという実感がない学生は約6割であったことが明らかになった。学生はポートフォリオ学習を行うことの成果を感じていないと言える。ポートフォリオ学習を行っていた学生は、シートに記入し進めていくことで目標や取り組む方法、達成度や自己の課題が明確になったことを実感できている。一方、ポートフォリオ学習を行えていなかった学生は、シートに何を記入すればいいのか方法がわからない、ポートフォリオ学習を意識しておこなっていないという反応を示している。久保ら⁵⁾はポートフォリオを活用することで、学生は自らの意思をもって学習することが出来たと述べている。また、自分がやったことや獲得したもの＝「成果」が見えると、人はやりがいを感じ、意志をもってさらに進みたくなる⁶⁾とされていることから、ポートフォリオ学習を行ってみることで学生は自分の課題が明確になり主体的に取り組むことが出来ると言える。7割の学生が目標・計画を記入することができていたにも関わらず、その後継続できていない者が約8割である。目標・計画を記入した後、実行・継続ができるよう介入が必要である。基礎看護学実習ⅠとⅡの比較検討を約7割の学生が行っているということから、実習は学生自身がポートフォリオ学習の必要性を認識できる機会といえるので、実習を通してポートフォリオ学習の必要性を伝えていく一方、担任はクラスの学生に対して、ほとんどの学生がPDCA サイクルで展開し自己の課題を明確にできたと認識している。昨年行った同様の調査⁷⁾では、PDCA サイクルで展開できた学生が約5割、自己の課題を明確にできた学生が約8割と認識していたことと比較すると、2年間続けてきたポートフォリオ学習の成果があったと言える。学生と担任とのポートフォリオ学習の成果の認識の違いは、学生の回答率が約40%であったこととポートフォリオ学習の必要性を

感じて進めている教員と、ポートフォリオ学習の行う意味が分からない学生との温度差によるものと考える。

ポートフォリオ学習を通して自主性を育む過程において、方法がわからなかったり、忘れてしまったり、継続ができない学生が多いため担任の関わりは重要である。昨年行った調査⁹⁾では、新型コロナウイルス禍で登学規制があり対面面談回数に限界があったため、オンライン会議システムによる介入の必要性が示唆された。そのため、今回 Microsoft Teams を使用して記入シートを学生自身がダウンロードして PC 上で入力し、teams を通して教員が学生とともにポートフォリオ学習を進めていける方法をとった。その関わりについて学生に調査したところ、良かった・まあまあ良かったと回答していた学生が 74% いた。門川ら⁹⁾は、紙媒体でも電子媒体でも PF の問題点の第一にあげられているのは「教員の負担」と述べている。これらのことから、現在も続いている新型コロナウイルス禍において、またそうでなくてもオンライン会議システムを利用することは時間・場所を選ばないため、方法がわからなかったり、継続が難しい学生への介入をすることが比較的容易にできる。また、鈴木¹⁰⁾がポートフォリオとプロジェクト学習で「自分一人だけでは、自分のやっていることが正しいのか、良いのかどうかわかりません。他者の評価や反応が成長のために必要なのです。」と述べているように、ポートフォリオ学習を継続し成長を実感するためには、他者である担任がポートフォリオ学習に取り組んでいる学生に対して、定期的に肯定的フィードバックをしながら伴走することが必要だと考える。その方法の一つとして、今後もオンライン会議システムを活用することが有効であると考えられる。

記録用紙の使いやすさについて調査した結果は、普通と答えた学生が約半数であり、使いやすかったと答えた学生を含めると 7 割の学生が問題ないとしている。しかし、使いづらかったと答えた学生のコメントにはわかりづらい、説明が欲しいというものがあった。担任よりどのように記入したらよいか説明しているが、後から見直すことが出来るように説明書を記録様式と共にオンライン会議システムに掲載していく。また、一目で目標・計画・実施内容・評価がわかるように一枚の用紙にまとめて記載できるように工夫すると良いと考える。

V. 結 語

ポートフォリオ学習を行っての成果は、昨年より

PDCA サイクルで展開できた学生・自己の課題が明らかになった学生が多かったこと、ポートフォリオ学習を継続して行っていた学生は目標や取り組む方法、達成度や自己の課題が明確になったと実感することができていたことである。

ポートフォリオ学習を進めていく上での今後の課題は、再度ポートフォリオ学習を行う意味と方法を伝えていくこと、立てた目標・計画を実行に移すことができるように介入することである。介入方法の一つとしてオンライン会議システムが有効であることが示唆された。

引 用 文 献

- 1) 中央教育審議会：学士課程教育の構築に向けて
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (2022.12.25)
- 2) 山口さつき・中川初恵・廣岡憲造・佐藤慶如：ポートフォリオ学習を導入して、保健福祉学部研究紀要(旭川大学), 14, 87-90, 2022
- 3) 鈴木敏恵：ポートフォリオとプロジェクト学習, 8-11, 医学書院, 2011.
- 4) 同掲書 2)
- 5) 久保善子・嶋澤順子・北 素子・高島直美・高橋 衣・佐竹澄子他：ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育の評価, 慈恵医大誌, 129, 119-127, 2014
- 6) 同掲書 3)
- 7) 同掲書 2)
- 8) 同掲書 2)
- 9) 門川俊明・ブルーヘルマンス ラウール・浅田義和・平形道人：意見：全国医学部のeポートフォリオ良況調査, 医学教育, 46 (5), 443 ~ 446, 2015
- 10) 同掲書 3)